

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091100014		
法人名	有限会社 竹の里		
事業所名	グループホーム 竹の里		
所在地	群馬県安中市松井田町五料2098-1		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成25年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた場所であり入居者一人一人が自分らしく心豊かに日常生活が過せる様に天気の良い日にはベランダに出て四季折々の花木等を眺めながらお茶を飲む事が出来ます。個人の意思を最大限に尊重し、家族、地域との交流を大切にしながら健康管理に努め毎日明るく楽しく安心して過ごせる様職員も家族の一員となり支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者や管理者は、職員の提案を受けて運営に反映させている。利用者が快適に過ごせるように職員が創意工夫をして、褥瘡予防の身体に優しい座布団や安全とプライバシーに配慮したトイレのカーテンを作成している。職員が講師となり、利用者と一緒に季節感のあるパッチワークの作品を作り、室内に飾っている。利用者の表情は穏やかで、恵まれた自然環境の中で、一人ひとりが伸び伸びと暮らしているように見受けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を職員一人一人が理解し実践している	代表者・管理者と職員は、職員会議等で理念に沿ったケアをしているか確認し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。恵まれた自然環境の中で、外出支援に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校、保育所や推進会議等を通じて交流している	地域の保育所や小学校の運動会に参加している。小学校からプランターの花を贈られたり、校長先生や教頭先生、先生と生徒が慰問に訪れている。事業所主催の映画会には、近隣住民に参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの慰問の時に地域の方に来所してもらい利用者を通じて理解してもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近状報告を行い、参加者の意見を参考に取り組んでいる	運営推進会議は定期的開催されている。運営状況の報告や運営推進会議の説明、避難訓練等を行い、意見交換を行っている。会議開催時に市の担当者が出席していない場合がある。	運営推進会議は事業所の考え方、運営や現場の実情等を伝える貴重な機会である。認知症ケアの実際を理解してもらうためにも、市の担当者には毎回の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やサービス調整会議にて意見交換を行っている	毎月、市の介護相談員の受け入れを行っている。市主催の事例研究研修会議に参加している。利用者の報告や申請代行・相談等で、市の担当者と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束を出来るだけしない取組を職員会議等で話し合い、戸外へ出たい利用者が居れば、一緒に散歩する等、施錠しない方向へ取り組んでる	日中・玄関の鍵は開けており、利用者が外出しそうな時は、職員が見守りながら一緒に出かけている。今年度は、身体拘束に関する研修への参加や勉強会は行われていない。	「指定基準に於ける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解するためにも、身体拘束に関する定期的な勉強会を実施し、職員の共有認識を図ってほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者のプライドを傷つけないよう、特に言葉使いによる虐待に注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族に理解、納得した上で契約、解約、改定している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、施設行事を通じて運営に反映している	利用者の要望等は、日常の会話等の中から汲み取っている。運営推進会議や家族等の来訪時には状況報告を行い、意見や要望を聞くように努めている。出された意見・要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議にて意見交換し、反映している	代表者・管理者は、月1回・職員会議を開催し、職員の意見や提案等を聞くように努めている。職員の提案により、利用者のプライバシーに配慮したトイレのカーテンや褥瘡予防の座布団が作成され、使用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の希望に添えるよう休み希望を確認している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々や職員会議等で研修を自主参加するよう話しをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の会議や研修に参加し、ホームの会議で報告しサービスの質を向上している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の性格や生活習慣を家族や本人に確認しながら早くホームで安心して過せるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、要望や意見を聴き信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で情報交換を密に行い初期対応を行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食は一緒に頂き、掃除や洗濯の手伝いをしてもらい信頼関係を築いてる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が疎遠にならぬよう行事や運営推進会議等参加を促し、共に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会も出来るよう、家族にその旨を伝えている。又、時々自宅で過ごす事を家族に勧めている	友人や家族等の来訪時には、居室でゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。代表者が墓参りや自宅へ同行することもある。家族等と一緒に外食や墓参り等へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように席を配慮し、コミュニケーションを取れるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談や支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の希望に添って検討している	本人の話を聞いたり、表情や態度等を観察して、思いや帰宅願望等を把握している。出来るだけ本人の希望に沿った生活ができるよう、家族等からも情報を得て、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人からの聞き取りや、サマリー等で把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や基本情報を元に把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議でのカンファレンス、モニタリング、家族からの意見を反映し、介護計画を作成している	本人・家族等の思いや意向を聞き、職員会議で話し合い、意見等を反映させた介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1度の定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や特変はその都度記録し、申し送りやカンファレンスで実践、見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や介護相談員の運営推進会議の参加。消防署職員を依頼し防火訓練を行い安全で豊かな暮らしを支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の往診や特変時の対応を主治医と連携し対応している	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。月1回・協力医の往診を受けており、受診結果を家族等に報告している。希望により歯科医の往診も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週一回入居者の健康状態の確認、観察、薬の管理、往診しの対応を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院と連携を図って情報交換を行い信頼関係を築いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や関係機関と話し合い本人にとってより良い支援が出来るよう取り組んでいる	「重度化・終末期の対応方針」を作成している。入居時に本人・家族等に事業所でできることを説明して同意を得ている。段階に応じて、その都度、家族等の意向を確認し、主治医等と連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的に行っていないが、マニュアルがあり、又、管理者やナースの指示で対応出来る様取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、備品の備えをしている、地域に対して協力はしてないが推進会議で区長等に呼びかけていく	年1回、消防署立会いの総合防災訓練(日中想定)を実施している。年1回、自主訓練(通報・避難誘導訓練)を実施している。近隣の人に緊急時の協力を依頼している。災害時の備蓄の用意をしている。	確実な避難方法を身に付けられるよう避難訓練の増加や職員だけの避難誘導の限界を踏まえて、地域住民の協力を得られるよう、地域との協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに最善の対応が出来るよう、カンファレンスで細かく話しあっている	利用者の誇りやプライバシーを損なうことのないよう、会議で話し合い、日常業務の中で注意を払っている。特に幼児語を使わないことや無理強いをしないこと等に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に何でも介助するのではなく、利用者自己決定出来るよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人の希望に添って、体調面も考えながら出来るだけバックアップする		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ衣類を着回さないよう気候を考慮し支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士のメニューをもとにバランスの良い食事を一緒に頂いている、又、おしぼりとエプロン準備を手伝って貰っている	栄養士に依頼し、献立を作成している。利用者の希望を聞き、行事の時は献立の変更をしたり、食べたいおやつを買いに行っている。利用者は食事の準備を手伝い、職員と一緒に同じテーブルを囲み食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のメニューをもとにバランスの良い食事を提供し水分はこまめに、あまり飲まない方には味の変化を付ける等工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否がある方も居るので、何度も声掛けや介助で清潔を保てる様心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンスで色々な意見を聴き取り組んでいる	排泄表で個別の排泄パターンを把握して、言葉かけや誘導を行っている。紙パンツ・パット類も本人に合わせて検討している。失禁時の対応については羞恥心に配慮をしている。トイレのカーテンは羞恥心に配慮をして作り変えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず自然排便が出来るよう、水分補給、食物繊維を多く摂り、毎日の体操、歩行練習を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月・火・水を入浴日に決めて、週2回の入浴をしている、又、失禁や入浴希望者はその都度対応している	月・水・金曜日の午後に入浴できる体制をとっている。利用者の状態や希望に応じて、基本的に週2回の入浴支援を行っている。入浴拒否の場合には、言葉かけの工夫や時間の変更等に対応している。	職員の都合で曜日や時間帯を決めず、一人ひとりの希望や習慣に合わせて入浴を楽しめるように、本人の希望を聞いて個別の入浴支援を行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず休息出来る環境作りを心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤訳が無いよう、表を貼りだし、新しい薬が追加等なった場合看護師より用量、用法の説明がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活して行くなかで、一人ひとり出来る事を手伝ってもらい、嗜好や楽しみごとはレク等に組み入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員ではないが、散歩や地域の運動会と外出している、又、家族に協力してもらい一緒に外出も行っている	庭やテラスを使用し、外気浴やお茶タイムをしている。散歩やドライブ、小学校の運動会見物、季節毎の花見や絵を描きに出かけている。家族等と一緒に外食や買物、墓参り、友人に会いに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が強い為、紛失する恐れがあるので、金銭管理は家族が行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話連絡は常に行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに写真や作品を掲示し温かく季節を感じられる空間作りをしている	利用者が四季の景観を楽しめるように、庭には様々な花木を植えている。室内は天井が高く清潔が保持されている。ホールには行事の写真や職員が講師になり、利用者と一緒に作ったパッチワークの作品等が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と過せるよう、又、孤立しないよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や机、趣味の物を居室に置き快適に過せるよう家族や本人と相談し配慮している	各居室には、テーブル・椅子・衣装ケース・写真・手作りの作品等、馴染みのものや好みのものが持ち込まれ、本人が安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの物に色がついていて、本人確認出来るようしている		